

第 2 学 年 生 活 科 学 習 指 導 案

2 年 2 組 指 導 者 藤 田 恵 里 子

単 元 2 の 2 ゆ う び ん き よ く へ よ う こ そ

資質・能力
①活用できる知識・技能
②自ら問題を見付ける力・解決する力
③根拠をもとに筋道を立てて考える力
④自分や仲間の考えを問い直す力
⑤様々な角度から自分の考えを割り出す力
⑥自分の思いや考えを分かりやすく伝える力
⑦自分から学びに向かおうとする力
⑧仲間の考えを委ねる力
⑨困ったときに援助を求める力
⑩自分の学びを見つめ直す力
⑪人間性(感性、達成感など)に関すること

1 単元について

本学級の子どもたちは、前期の「としょかんたんけんたい」の学習において、学校図書館や県立図書館を訪問した。そこで働く図書支援員や司書と繰り返しかかわることで、それらの人々の仕事と自分たちの生活とのつながりに気付いている。このような子どもたちが、郵便局を訪問し、そこで働く郵便局員と繰り返しかかわりながら、自分たちの郵便局をつくる。このことは、地域で生活したり働いたりしている人々が自分たちの生活を支えていることに気付き、地域の人々や様々な場所への親しみや愛着をもち、進んでかかわることの楽しさを味わうことにつながるだろう。

本単元は、郵便局やそこで働く郵便局員などとかかわることをとおして、様々な人々の思いや願いにふれ、よりよい2の2郵便局にするにはどうしたらよいかを追究していく学習である。子どもたちは、手紙について気付きを交流する中で、郵便のしくみに疑問をもつ。そして、郵便局を見学することをとおして、「郵便の仕事をしてみたい」という思いをもち、2の2郵便局をひらく。繰り返し2の2郵便局の活動を行うことで、郵便局員の仕事の大変さや楽しさを感じ、郵便局員の仕事が自分たちの生活を支えていることに気付き、郵便局やそこで働く郵便局員などに親しみや愛着をもつのである。このような学びにおいて、仲間との話し合いの中で自ら工夫を見付け、学んだことと関連付けながら、よりよい2の2郵便局にするために活動できるようにしたい。そうすることで、郵便局やそこで働く郵便局員などに、より親しみや愛着をもつことができると考えるからである。

そこで、以下の支援を具体化する。

- 郵便局見学と2の2郵便局の活動を繰り返す単元構成を仕組む。そうすることで、自分たちの活動と郵便局員の仕事を比べながら、よりよい2の2郵便局にするための工夫を考えることができるようにする。
- 2の2郵便局の工夫について話し合う中で、自分たちの具体的な活動への気付きが集中した際には、郵便局員やお客さんの立場に立った問い返しをする。そうすることで、身の回りの人々の思いや願いを視点を、もう一度工夫について考えることができるようにする。
- 「分かったこと」と「次の時間に生かせそうなこと」を観点に振り返りを書いた上で、スケジュール表に新たな自分の活動を書き込むように促す。そうすることで、自分の学びを見つめ直し、次時の活動の見通しをもつことができるようにする。

2 目 標 (地域と生活、生活や出来事の交流)

- 郵便局見学や2の2郵便局の活動をおして、自分の生活が身の回りの多くの人々に支えられていることに気付くことができるようにする。
- 郵便局や学校などの身の回りの場所や人々に親しみや愛着をもち、進んでかかわることの楽しさを味わうことができるようにする。

3 評価規準

主体的に学習に取り組む態度(態)	思考・表現・表現(思)	知識・技能(知・技)
○郵便局や学校などの身の回りの場所や人々に親しみや愛着をもってかかわろうとしている。 ○よりよい2の2郵便局にしようとしている。	○郵便局員について考えたり、振り返ったりしたことを自分なり方法で表現している。 ○よりよい2の2郵便局にするための工夫を考えている。	○郵便局や学校などの身の回りの人々が、自分たちの生活を支えていることに気付いている。 ○親しみや愛着のある場所や人が増えたことに気付いている。

4 指導計画(全19時間)

- 1次 郵便局見学をし、2の2郵便局をひらく見通しをもつ(4時間)
- 2次 2の2郵便局をひらく(13時間)【本時8/13】
- 3次 学習を振り返り、○さんにお礼の手紙を書く(2時間)

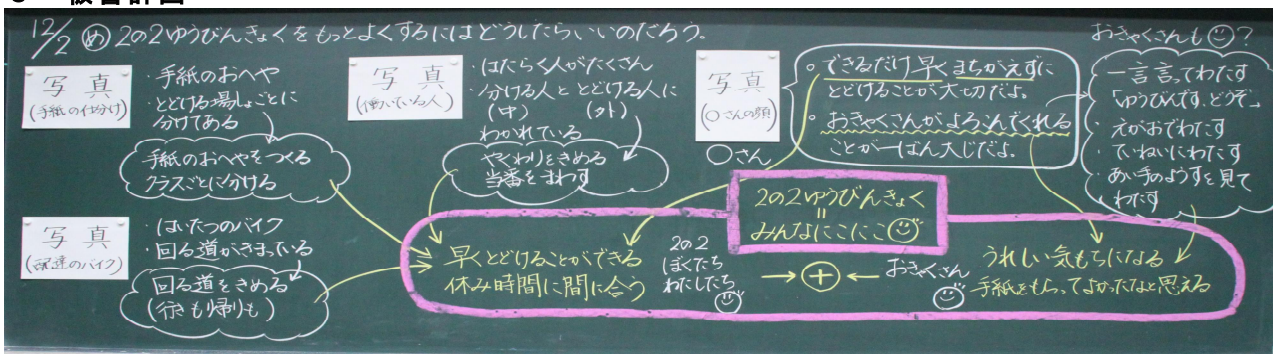
5 本時案 【平成28年12月2日 13:25~14:10 2年2組教室】

(1) ねらい 配達の工夫について話し合うことをとおして、郵便局員の思いや願いに気付
き、よりよい2の2郵便局にしようという意欲を高めることができる。

(2) 学習過程

学習活動／子どもの意識	支援
<p>① よりよい2の2郵便局にするための工夫を話し合う (35分)</p> <p>学習内容 ・2の2郵便局の工夫について話し合う意欲(態) ・郵便局員の思いや願いへの気付き(知・技)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2の2郵便局では、困ったことがいくつかあったね。 休み時間のうちに配達が終わらなかつたり、届けるのが何日も後になったりしたことがあったよと掲示板にも書いてあるよ。 2の2郵便局をもっとよくするにはどうしたらよいか考えよう。 <p>A 郵便局では手紙のお部屋があつて、配達場所ごとに分けていたね。ぼくたちも配達する場所ごとに分けておくと届ける場所がすぐに分かるし、行ったり来たりしなくてよいのではないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 通るコースも決めておくと短い時間で回ることができるね。 それならポストの中の手紙を回収するときのコースも決めたらどうかな。○さんもバイクの道は決まっていると書いていたよ。 ○さんが「出来るだけ早く、間違えずに渡すことが大事」だと言っていたよね。これで早く届けられるようになったね。 早く届けられるとお客さんもうれしい気持ちになるね。 <p>早くすることだけがお客さんにもにこにこの郵便局なのかな。</p> <p>B わたしは、早くすることだけではなくて笑顔で渡すことも大切だと思うよ。○さんも、「お客さんが喜んでくれることが一番大事」だと言っていたからね。</p> <p>A 確かに、ぼくたちも届けたときのお客さんの笑顔がうれしかったよね。一言、言って渡すのもよいと思うよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「郵便です。どうぞ」と言ったらどうかな。本物の郵便屋さん に近付いたみたいでワクワクするね。 それなら、お客さんにもにこにこの郵便局になりそうだね。学校のみんながにこにこの郵便局になるように頑張ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○掲示板の問題をもとに解決策を考えるように促すことで郵便局見学と2の2郵便局とを関連付けて考えられるようにする。 ○郵便に関する具体物を用いて気付きを伝えるように促すことで、仲間の気付きの具体を捉えられるようにする。 ○仕事の早さについての気付きが集中した際には、お客さんの立場に立った問い返しをする。そうすることで、郵便局員やお客さんの思いや願いについての視点でもう一度工夫を考えられるようにする。 ○「分かったこと」と「次の時間に生かせそうなこと」を観点に振り返りを書いた上で、スケジュール表に新たな自分の活動を書き込むように促すことで、次時の活動の見通しをもつことができるようにする。
<p>② 本時を振り返り、次時の活動の見通しをもつ (10分)</p> <p>学習内容 ・文章への表現(思) ・活動の見通し(思)</p> <p>A みんなににこにこの郵便局にするための工夫が分かったよ。ぼくたちだけじゃなくて、お客さんも笑顔になれるようにしたいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の時間はコース決めと渡し方の練習だ。スケジュール表に次の時間にすることを書いておこう。次の時間が楽しみだな。 	

6 板書計画



7 考察

「2の2ゆうびんきょくへ ようこそ」で行った支援と、そこで表れた子どもの姿について、発揮された資質・能力との関連で述べていく（資質・能力との関連は下線で示す）。

（1）生活の場を広げながら対象とかかわる単元構成の工夫について

学校だけの郵便局活動から幼稚園を交えての郵便局活動を行うようにし、子どもたちの生活の場を少しずつ広げていく単元構成を意識した。このようにしたことで、今までの活動に工夫を加えて幼稚園での郵便局活動を考えるといった、異なる場にある人やもの、ことを関連付けて気付きの質を高めていく姿があった。【資質・能力②⑤⑦⑧】また、生活の場を広げながら学びをつくらせていったことで、自分たちの生活範囲が広がり、自信をもって活動したり日々の生活をしたりすることにつながった。【資質・能力①⑦⑩】一方で、対象とのかかわらせ方が大きな課題として残った。例えば、郵便局見学の活動であれば、子どもたち一人ひとりが体験できる活動をしっかりと確保しておく必要があったと感じる。一人ひとりがより具体的に深くかかわっていくことで、個々の気付きの質を高めることにつながると考えるからである。単元構成を考える上で、子ども自身が気づき、関連付けていくことができるような場（活動）の設定が必要だと感じた。

（2）気づきを関連付けるための問い返しの工夫について

問い返しの観点を統一していくことの大切さを感じた。本単元では、指導計画の中で、問い返しの観点を「相手（自分以外）の視点に立った問い返し」に限定し、どのような場面でどのような問い返しをするかを毎時間設定した。そうしたことで、子どもたちが次の活動を決める際、相手の気持ちを考えながら発言をしていく姿が多く見られるようになったり、子ども同士で問い返しを行う姿が見られたりと、今までの学びを生かして自らの気付きの質を高めて行くことができた。【資質・能力②⑦⑩】一方で、十分に気付きの質を高められなかった児童がいたことも事実である。集団として気付きの質が高まっていったことは見取れたが、個人で見ると、気付きの質の差が大きくなることを強く感じた。集団への支援も必要であるが、個々の気付きの質を高めて行くための支援を考える必要があると感じた。

（3）自分の学びを見つめ直す振り返りの工夫について

主体性を高めるために、今年度は、「次の時間に生かせそうなこと」という観点を加え、次の活動へつながる振り返りを意識してきた。このことにより、毎時間の振り返りの中で、本時の学びをとおして次にしたいことをつなげて考えることができる姿が多く見られるようになった。【資質・能力②⑦⑧⑩】しかし、振り返りの中で見取れた子どもの気付きを十分に生かせていなかったことが課題として挙げられる。振り返りにおいて、自分の学びを見つめ直すことができても、具体的な活動に生かされていない（実践に生きていない）場面が多くあったのである。原因としては、気づきを個々が自覚化できていなかった、個々の気づきを集団として生かしきれなかった（個々の課題が集団の課題になっていなかった）ことがあると考える。今後は、個人の振り返りを全体で紹介する時間を設けたり、表現と振り返りを一体化させたりと、子どもが気づきを自覚できる振り返りを意識したい。